

ジョージ・ベンジャミン
オペラ

リ
ト
ウ
ン
.
オ
ン
.
ス
キ
ン

日本初演

George Benjamin: *Written on Skin* [2009-12]
Opera in Three Parts (Japanese Premiere)



現代オペラの、いや、オペラそのものの偉大な瞬間！
(仏ル・フィガロ紙)

2019年
8月28日(水)・29日(木)
19:00開演(18:20開場)

サントリーホール 大ホール

19:00 (18:20 Doors open)
Wednesday & Thursday,
August 28 & 29 at Suntory Hall, Main Hall

英語上演、日本語字幕付
台本：マーティン・クリンプ
セミ・ステージ形式

Sung in English with Surtitles in Japanese
Martin Crimp, Text
Semi Staged Opera

指揮：大野和士

Kazushi Ono, Conductor

東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

プロテクター：アンドルー・シュレーダー (バリトン)

The Protector: Andrew Schroeder, Baritone

妻・アニエス：スザンヌ・エルマーク (ソプラノ)

Agnès, His Wife: Susanne Elmark, Soprano

第1の天使/少年：藤木大地 (カウンターテナー)

Angel 1 / The Boy: Daichi Fujiki, Countertenor

第2の天使/マリア：小林由佳 (メゾ・ソプラノ)

Angel 2 / Marie: Yuka Kobayashi, Mezzo-Soprano

第3の天使/ヨハネ：ジョン・健・ヌッツォ (テノール)

Angel 3 / John: John Ken Nuzzo, Tenor

舞台総合美術：針生 康

Shizuka Hariu, Creative Direction and Design

私のオペラ『リトゥン・オン・スキン』が日本で上演されることを、とても嬉しく思っています。サントリーホールは、東京に限らず日本、そして世界の中でも非常に重要なコンサートホールですのでとても光栄です。また、長年の知り合いである大野和士氏が指揮を務めるのも嬉しいです。彼はオペラの経験も非常に豊富で、力強く素晴らしい指揮者ですし、人柄もこの上なく素晴らしい方です。今回はセミ・ステージ形式で上演されますが、コンサートホールでは、このオペラの編成やハーモニーであれば、歌声はより鮮明に聴こえてきますし、ストーリーも明瞭に伝わります。そして針生康氏の舞台美術によって、このオペラにきっと新たな息吹が吹き込まれることでしょう。

ジョージ・ベンジャミン



大野和士



アンドルー・シュレーダー



スザンヌ・エルマーク
©Lars Andreas



藤木大地
©Hiromasa



小林由佳



ジョン・健・ヌッツォ



針生 康

『リトゥン・オン・スキン』あらすじ

プロテクター(裕福な領主)が写本彩飾師の少年を自宅に迎え入れる。彼は一冊の装飾写本の完成をその少年に依頼していたのだ。この仕事は、領主の望むところでは、彼が自らの政治権力を使っておこなった冷酷な仕打ちと、秩序だった家庭生活が彼にもたらす静かな充足——それは妻アニエスの謙虚さと子供のような従順さに体现される——

とを不朽のものとするはずだった。しかし、写本の制作が妻に反抗のきっかけを与えてしまう。少年を首尾よく誘惑したアニエスは、彼との親密な関係を利用して写本の内容そのものを描き換えさせ、夫に自分の真実の姿を見せつけようとする。これが常軌を逸した最後の挑発行為へと道を開いてしまうのだった。(マーティン・クリンプ/向井大策 訳)

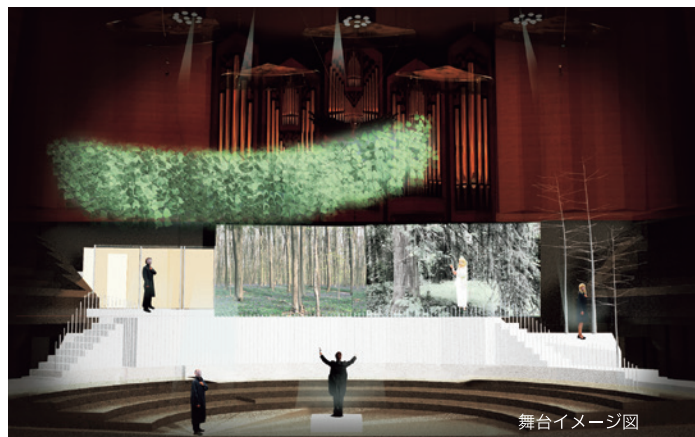
美術ノート

針生 康

今回のオペラで特に意識しているのは、時空を乗り越えるようなイメージの世界を提供することです。主な背景となる中世のフランスの環境や文化、現代の都市が錯綜していく部分が難しくもあり、チャレンジしがいのある要素です。また、素晴らしい音楽の多様性は驚きをも感じさせるような音の世界を繰り上げていきます。それらの音の世界を視覚的効果に反映させていくために具象と抽象の映像イメージを対比させながら空間に散りばめていきました。

この作品にたずさわると共に悩んだ果てに、映像の中のストーリーは抽象的ではあるが、ある程度の具象を含み原作のオペラの物語を尊重するものと想定しました。例えば、サントリーホールにおいては、舞台として利用できるスペースは限られており、デッキを設ける必要がありました。——上は白いボリュームで形成され、現代的な列柱空間は室内を表す。デッキには、錯綜した小枝のようなスティックの格子が巡る。人工的なこれらの抽象空間と対比のように映像の中では具象化した空間で撮影をした。実際の中世のお城を舞台上に撮影し、物語のバックグラウンドを表現している。——原作に基づき、またプロヴァンスの季節感や1日の時間軸を光で表現したいと考えました。一見難しく思える現代オペラですが、イメージと戯れながら演劇的要素を味わえる総合芸術のオペラとしていつのまに

か、物語の世界にのめり込んでいくようなクリエイティブ・ディレクションを心がけました。アニエスの強さと儚さ、天使という人智を超えた存在、プロテクターの時代性と傲慢さなど時空を超えた多様な人間模様をお楽しみください。



舞台イメージ図

TICKET INFORMATION

S:6,000円 A:5,000円 B:4,000円 学生:1,000円

絶賛発売中

お問合せ・チケット取り扱い: ●サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 (10:00~18:00 休館日を除く)

●サントリーホール・メンバーズ・クラブ WEB <http://suntoryhall.pia.jp/> (登録料・会費無料、座席選択可能)

●サントリーホール窓口 (10:00~18:00 休館日を除く) ※18:00以降開演の公演がある場合は開演時刻まで営業

●東京コンサーツ 03-3200-9755 (平日10:00~18:00) <http://tokyo-concerts.co.jp/> (登録不要、座席選択可能)

●チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp/> [Pコード 561-760] ●イープラス eplus.jp

※出演者に変更がある場合がございます。あらかじめご了承ください。※就学前のお子様の同伴・入場はご遠慮ください。

サントリーホール サマーフェスティバル2019
ザ・プロデューサー・シリーズ 大野和士がひらく

◆大野和士が語る〈現代オペラ〉クロニクル

8月23日(金)19:00 ブルーローズ(小ホール)

聴講料[自由席]一般1,000円/学生500円

◆大野セレクションの室内楽

8月24日(土)16:00 ブルーローズ(小ホール)

指定席3,000円/学生1,000円

[@SuntoryHall_PR](https://twitter.com/SuntoryHall_PR)

[@suntoryhallJAPAN](https://www.facebook.com/suntoryhallJAPAN)

主催：サントリーホール

制作協力：東京コンサーツ

サマーフェスティバル2019 特設サイトはこちらから

サントリーホールディングス株式会社は公益財団法人サントリー芸術財団のすべての活動を応援しています。

